



ゆみこの日記

AED の救命処置を学びました

4月16日、AED を使った救命処置の講習を受講しました。

倒れた人を見かけたら、心停止を疑い、直ちに救急車を呼ぶのが基本ですが、救急車が到着するまでの応急措置はとても大事です。慌てず対応できるよう AED 装置の使い方に慣れていきたいと思います。



入園、おめでとうー渡利幼稚園入園式ー

4月9日、渡利幼稚園4歳児もも組に13人の可愛い子どもたちが入園されました。

渡利幼稚園は、「心も体もたくましい幼児の育成」という教育目標を掲げています。

渡利地区の子どもたちの健やかな成長を応援します！

千手観音に癒しのひととき



4月21日、小倉寺の千手観音例大祭に行ってきました。
ふくよかで穏やかなお顔立ちの千手観音像に、木彫りの温かさを感じながら参拝して参りました。



女性のつどい

6月30日、所属する(アイ)女性会議の「つどい」で、「くらしの安全・安心」をテーマに市議会議員としての活動について報告しました。



フィジーからのお便り

フィジーの「おふくろの味」

フィジー国シナヌ町役場でジャイカボランティアをしている友人、古川仁さんから、お便りが届きました。今回の話題は庶民の定番メニューです。

フィジーの人口は約90万人。先住民であるフィジー系住民が6割。インド人移民の子孫であるインド系住民が約4割。だから美味しいインド料理の飲食店が数多くあります。写真(左)のお料理はチキンカレーで、小さなカップにひきわりにした豆(ダール)で作ったダールスープが付きます。値段は6フィードル、約400円。骨付きチキンとジャガイモが少しだけ入った、辛くて香ばしい庶民の定番メニューです。



三浦ゆみこと歩む会



ぜひ、歩む会の
会員になって下さい

〒960-8142

福島市小倉寺字町畑 13

TEL / FAX : (024) 563-1539

E-mail : miura.yumiko5.27@gmail.com

社民党・福島市議会議員



三浦ゆみこと歩む会



AYUMU KAI News Letter No.4 2024年7月

6月定例会議

福祉・介護・まちづくり

「くらし」をテーマに一般質問



質問の冒頭、恒例となりました手話を交えてごあいさつ。
写真(上)は「三浦」の「み」！

6月10日、6月定例会議で4度目の質問に立ちました。

障がい者福祉、介護の問題に取り組む中で身についた「誰一人、取り残されることのない社会」の視点が、三浦由美子の原点です。

障がい者が災害時に取り残されることがないように、高齢者が社会参加の機会を奪われないために、どうしたらいいのか、何ができるのか、日々、考えています。

6月定例会議でも、そうした視点を持って、くらしの中で直面する問題を取り上げ、質問してきました。

市民の思いによりそう
まちづくりを求めて

市民の皆さんの声を積極的に市政につなげていきたいとの思いで、定例会議では必ず質問に立ってきて、今回、6月定例会議でも、福島市が現在、抱えている問題と昨年から継続した課題を合わせた内容で4回目の質問を行いました。

6月定例会議の大きな議題の一つは福島駅東口再開発に関する議事でした。福島市の顔となる東口の早期再開発を望む思いは一致するものの、コンベンションホールへの設計見直しと追加補正予算の採択では、各党派や議員一人ひとりの判断が分かれる場面もありました。採決の結果、可決され、市長からは、「市民の皆さんのご意見を伺いながら粛々と駅前再開発事業を進めていきたい」とお話がありました。

今、福島市駅周辺のにぎわいは、「崖っぷち」とも言える状態ですが、再開発事業はもとより、それ以外でも、市民の皆さんの思いに沿ったまちづくりのため、議員としてしっかり役割を果たしていきたいと思っています。

三浦由美子

6月議会で一般質問に立ちましたー裏面にダイジェスト版を掲載しています

■ 質問項目 ■

- 障がい者のスポーツ参加における合理的配慮について
- 避難行動要支援者、個別避難支援プランについて
- ももりんシルバーパスポートについて
 - ももりんシルバーパスポートの見直しについて
 - マイナンバーカードの使用について
- 福島市全体のまちづくりについて
- 福島市高齢者いきいきプラン2024について
 - 介護職員の必要数と、その確保について
 - 介護予防サービスの位置付けと課題について

障がい者のスポーツにもっと光を！

3月定例会議に引き続き、健常者、障がい者がともに参加できる「ふくしまシティハーフマラソン」の合理的配慮を踏まえた運営のあり方について、きめ細やかな対応を行っているかどうか、質問しました。

これに対し、市民文化・スポーツ部長から、大会に向けて聴覚障がい者協会、関係課との話し合いを行い、手話通訳者の配置、手持ち看板の掲示などの準備に活かしてきたとの答弁がありました。

一方で、障がい者団体への大会参加の働きかけについて、市民文化・スポーツ部長の答弁では、県と市の社会福祉協議会や福祉事業所、地域包括支援センターなどに働きかけたとのことですが、障がい者団体に充分伝わっていないことから、不十分さは否めません。

また、申し込み時点で障がい者の参加状況が把握されていなかったという問題点も浮き彫りとなり、次回大会に向けた課題として認識されました。

続いて、障がい者自身がスポーツを楽しむ機会を増やす施策について、市の所見を質問しました。これについては、市長が答弁に立ち、「市ではTokyo2020を契機にスポーツを通じた地域活性化を進めており、パラスポーツの振興はその柱の一つ」として積極的に取り組んでいる内容が具体的に報告されました。

傍聴して下さった皆さま、ありがとうございました



皆さんの傍聴に
大変励まされます！



災害時の障がい者サポートについて

3月定例会議での「障がい者個別避難プランの作成については進捗率7.7%」との答弁を踏まえて、避難行動要支援者数と登録者数、進捗率を再度質問しました。

これに対し、健康福祉部長より「対象者24,059人、登録者数12,383人、このうち優先度の高い浸水想定区域内に居住する要支援者は3,800人で、避難プラン作成済みの要支援者数は404人、進捗率は11%となっている」との回答がありました。

能登半島地震をはじめ、災害時の避難行動の際、情報の遅れは生命に関わることから、市と町内会がともに取り組むことが必要である一方で、個人情報の取り扱いについても配慮が求められます。こうしたことについて、健康福祉部長より「ご本人の同意の上で避難行動要支援者名簿に登録し、町内会、自主防災組織、民生委員、消防団、地域包括支援センターで共有することとしている」との回答があり、また、危機管理監からは「地域の実情に応じた自主防災計画の作成の中で住民の防災意識の醸成にも繋がる」との認識が示されました。

災害時、とりわけ「自助」が難しい、情報弱者でもある避難行動要支援者の問題を「自分ごと」として捉えて、地域ぐるみのサポート体制づくりに市が積極的に取り組んでいくことを要望してきました。

シルバーパスポート「見直し」は福祉の後退

ももりんシルバーパスポートの見直しの理由として、市は「一人で67万円も使っている人がいる」と繰り返し言われていますが、そういう特別なケースを取り上げることで利用機会を委縮させるのは問題ではないかと指摘した上で、改めて「ももりんシルバーカード」の財政状況と、これまで高齢者の社会参加に果たしてきた役割についてどのように評価されているか質問しました。

これに対し都市政策部長から「令和5年度で対象者4万5,000人に対し事業費は1億5,000万円、対象者が5万人を超えると見込まれる令和7年度には2億円を超えると推定される」、「明確なエビデンスはないが、高齢者の外出機会の増加、フレイル予防等の健康促進に寄与していると考えられる」との答弁がありました。

そのような、ももりんシルバーパスポートが果たしている役割を思えば、上限額の設定は高齢者のくらしの安心・安全を損なうもので、福祉の大きな後退であると指摘してきました。

また、タクシー利用時にマイナンバーカード利用を条件とするのは問題ではないかと質問しましたが、答弁は「マイナンバーカードありき」で進められている印象を強くするものでした。

高齢者を支える体制づくりを

「福島市高齢者いきいきプラン2024」では、さまざまな「見込み」が示されている一方、介護職員の必要人数について記載がないことから、改めて介護職員の必要人数を質問しました。

健康福祉部長から「介護サービス料の増加に伴い、介護従事者も増加する見込み」との答弁でしたが、併せて、市が行った事業所のアンケートでは人材確保が困難との回答が多く見られたとの報告がありました。

また、要支援からの重症化を防止するための課題について、質問してきました。

駅東口駅再開発事業・イオンタウン 中心市街地の空洞化に歯止めを

南矢野目の「イオンタウン」進出により、駅東口再開発事業の位置づけが揺らいでいることから、市全体のまちづくりの構想について質問してきました。

これに対し、市長から「中心市街地は中心拠点として、人口集積地は地域拠点として、その特性に応じた生活機能や産業機能を交通ネットワークで連携させる《コンパクト＋ネットワーク》をまちづくりの方針として進めている」との答弁がありました。

とは言え、東口再開発地域をはじめとする中心市街地に商業施設がない中、3年後のイオンタウンのオープンで人の流れが一気に変わることが予想され、中心市街地が取り残されることが危惧されます。

事業概要

(1)施設構成	
公共棟(保留床) ……	フレキシブル・ホール(最大1,500人程度収容。3分割利用が可能な平土間式で、一階で大屋根広場とつながる)、会議室、スタジオ等、まちなかりビング、大屋根広場、屋上広場など
商業・事務所棟(権利床) ……	飲食・サービス・物産店舗、創造的ワーク・交流スペース(交流機能が充実したインキュベーション施設、シェアオフィス、コワーキングスペース)など
住宅棟(保留床) ……	分譲マンション100戸程度
駐車場棟(権利床) ……	駐車場500台程度、駐輪場200台程度、権利者店舗
(2)スケジュール 令和10年度内の竣工、早期の供用開始を目指す	
(3)事業費の見込みと経済効果 ※設計前でありプラン・仕様・設備が固まっていないため、数値は参考	
①全体事業費 550～580億円程度	
②保留床(市施設)取得費 250～270億円程度	
③市施設管理運営費 年間6～7億円程度	
④経済効果 40～50億円程度(再開発エリア全体。ホール稼働率は85%として試算。)	

昨年の「ふくしまシティハーフマラソン」で、途中棄権された聴覚障がい者の方がその場に置き去りにされた問題を3月定例会議で取り上げたところ、今年の大会ではだいぶ改善されました▶しかし今回、文化・スポーツ部長とのやりとりで新たに分かったことは、申込時点で障がいの有無の確認がされておらず、事前に障がい者の方々の存在を把握していなかったとのこと▶幸い、怪我などの事故にはつながらなかったものの、障がい者への合理的配慮については、まだまだ課題があることを改めて認識させられました▶ももりんシルバーパスポートについて、前回の3月定例会議に引き続き、上限額の見直しは大いに問題があるとの立場で質問しました▶この見直しは、「高齢者の社会参加機会を担う」という事業本来の趣旨から外れており、事実、「病院が遠くなる」という声が上がっています▶他の議員からも「当事業の後退になるのではないか」との意見も出ています▶タクシー利用の追加はいいにしても、1万円では場所によっては病院との一往復で終わってしまう額です▶「他の自治体と比べたらいい方である」との答弁に見られる通り、これまでの成果を見ることもせず、見直しありきの態度には疑問を抱かざるを得ません▶また、タクシー利用はマイナンバーカード保持者に限定することや、高齢者のカードの提示機会が増えることも大変問題であると考えます▶介護予防サービスの課題について、昨年、9月定例会議で「要支援1」の方の状態悪化について質問しましたが、本市も全国的な流れと同様、重度化の傾向がみられることから、今回、改めてその改善策について質問しました▶本人が今まで出来ていたことを奪うサービスの内容の改訂であることが、介護の現場からも指摘されており、その現状を伝えましたが、残念ながら的確な答弁は得られず、現場の状況が理解できていないのではないかと感じました▶この事を放置すれば、エスカレーター式の重度化に歯止めがかからないことが懸念されます▶本人の能力をできるだけ低下させず、見守ることも介護サービスの役割であると捉え、取り組むべきと思います。